

令和3年度第1回三島総合病院地域協議会 議事録

開催日時：令和3年10月28日（木） 13：30～14：30

開催場所：三島総合病院 第一会議室

出席者：委員）池田裕介（一般社団法人三島市医師会会長）

水口国康（三島市健康福祉部参事・健康づくり課長・健康政策戦略室長）

志村 肇（三島市谷田押切町内会役員）

病院）野田芳人（三島総合病院長）、平塚世津子（三島総合病院看護部長）

高山卓也（三島総合病院事務長）、高塚聖文（三島総合病院事務長補佐）

【次第】

1. 病院長挨拶
2. 三島総合病院の現況について
3. 三島総合病院への要望事項について
4. その他

1. 病院長挨拶

本日は大変お忙しい中、令和3年度第1回三島総合病院地域協議会にご出席いただきありがとうございます。

この協議会につきましては、地域の実情にあった病院運営に努めることを目的としておりますので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。

2. 三島総合病院の現況について（病院より説明）

○ 職員数について

10月1日現在の職員数は、常勤273名、非常勤64名の合計337名です。前年10月1日現在の職員数から▲3名となっております。医師については、令和3年1月より常勤の腎臓内科医1名、令和3年2月より常勤の麻酔科医1名を採用。来年度の予定として4月より常勤の腎臓内科医1名、同じく秋頃に腎臓内科医（女医）の採用を予定しております。

○ 患者数等について

患者数等については、上半期1日平均患者数127.3人、病床稼働率70.4%、地域包括ケア病棟50床の稼働率は90.4%、透析センター34床の稼働率は102.7%、1日平均外来患者数272.3人となっております。外来患者数については、本年4月より皮膚科外来を開設、呼吸器科外来の診療枠を1枠追加、6月からは耳鼻咽喉科の診療を週1回から週2回となり外来患者数の増加に繋がっております。

健康管理センターの健診者数については、24,209人で前年度はコロナの影響もあり大幅に減少しましたが、今年度は一昨年とほぼ同じ健診者数に戻っております。

老健の入所率は100床で94.9%、通所利用率は定員40名に対し72.6%で1日平均30人前後の利用者数、分娩件数は9件、経常収支については、上半期までで89,471千円の黒字となっております。前年度同月累計では▲35,000千円でしたので経営も徐々に回復傾向にあります。

○ 新型コロナウイルスワクチン接種実績について

当院職員は5月から開始し6月までに2回目の接種が終了。7月からは三島市高齢者のワクチン接種を開始、9月までに合計4,663人の接種を終え、うち4,481人が三島市在住の方でした。今後の予定としましては、3回目の接種について、来年2月に我々医療従事者、3月からは三島市の高齢者の接種を予定しております。

志村委員) コロナウイルスの現状とワクチン3回目接種について、今後の動向はどうですか。

病 院) なぜ、コロナ感染者が減ったのか要因が分からない。ワクチン接種なのか緊急事態宣言の効果なのかは不明である。コロナの今後の動向については、誰も先が見通せない状況です。

水口委員) コロナワクチン接種にご協力いただきありがとうございます。3回目接種の予定については先程病院から説明があったとおりですが、ワクチンが予定どおりに供給されなかった場合は接種時期が変更となります。6週間前には受診券を郵送し、ワクチンの供給が少ない場合は予定変更となります。

○ 周産期センターについて

平成28年3月に立ち上げた周産期センターについては、諸事情により令和4年1月で分娩を中止、令和4年2月で妊婦検診を中止することが決定しました。

これらについては、5月に静岡県と三島市、7月に管轄の東部保健所、7月27日に「東部保健所管内の周産期医療連絡会」において周辺の分娩施設へ閉病院より説明し、ご理解を得たうえで閉鎖することとなりました。

今後は「～すべての女性に思いやりのある医療を～」をキャッチコピーとして掲げ、婦人科診療・婦人科検診・母子保健事業（産後ダイケア・母乳外来）はこれまでどおり継続して実施し、新規事業として助産師による母乳訪問を三島市と調整中であります。

池田委員) 婦人科の非常勤医師はどうなりますか。手術後の患者さんの電話対応も引き続きお願いしたいのですが。

病 院) 非常勤医師は引き続き継続で来てもらい、外来診療は続けることとなっております。手術についても今までどおり非常勤医師が行ってくれるよう交渉しております。産科当直はなくなりますが、他の婦人科当直は引き続き実施します。

○ 透析センターの活動について

医師、看護師、臨床工学技士の総勢 15 名で運営、来年 4 月より常勤看護師を 1 名増員予定。維持透析患者 74 名、従前の稼働率は 80% 台であったが 2021 年度までに稼働率が 21% 上昇、患者数にして 18 名増えています。また、平成 30 年度からは治療のための経皮的血管形成術（PTA）を行っており、年間 70 件が現在は 150 件まで増加し近隣 7 施設から治療の依頼があります。

令和元年 11 月からは腎臓病患者さんがより良い日常生活を送ってもらうのが目的で腎臓リハビリテーションを開始し、現在 6~8 名の患者さんに実施しています。対象患者さんは、該当すると思われる患者さんの体力測定を行い、理学療法士が運動機能が不安定かどうかを確認、その後、医師が総合的に診断し、透析を続けながら腎臓リハビリテーションを実施した方が良いのかどうかを判断しています。

透析医療はチーム医療であり、医師・看護師・栄養士・理学療法士等が関わり、透析患者さんにより良い治療を提供しています。また、送迎バスを運行し、現在 4 名の透析患者さんに利用いただいています。

今後、さらに 1 名医師が増えれば、午後の透析を週 3 回まで増やし、稼働率 130% ぐらいできると考えています。近隣で入院施設を持つ透析センターは当院だけなので今後更に充実させたいと考えています。

池田委員) 今後、透析のベッドは更に増やすのですか。MAX 何人ぐらいまで考えていますか。

病 院) 現在の透析センターではスペース的にベッドを増やすのは無理なので 34 床のままで運用し、毎日は無理であるが、午後透析を実施し、まずは 1 日 40 半ばの患者数までと考えています。

水口委員) 透析患者さんは、依然 5 年から 10 年くらいで亡くなると聞いていましたが、今はどんな感じなのでしょう。

病 院) 今は依然のようなことはなく、寿命は長く、健康意欲も高く健診を受ける患者さんもいます。

水口委員) 高齢者も増え、透析患者さんも増える傾向にあるので、重症化する前に健診を受けて欲しい。

病 院) 予防医学は重要なので、三島市の特定健診は半年間ではなく、通年で受けられるよう検討して欲しい。

3. 三島総合病院への要望事項について

志村委員) 三島総合病院はプライバシー保護の観点から、受診番号を呼んでも、その後に確認もせず、すぐに名前で呼んでいる。連続で呼んでいる感じがするので、しっかり配慮して欲しい。他院では、ポケベルのような物で知らせているが、そこまでの要望は特にないが、受診番号に続きすぐに名前を呼ぶのはどうなのでしょうか。

病 院) 貴重なご意見、ありがとうございます。改善するよう現場に指示いたします。ご指摘ありがとうございました。

水口委員) 介護保険の要望を言う機会として、地域リハビリテーション活動の一環として、三島総合病院に年 30 回程度、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を派遣していただき、ケアマネージャーのケアプラン作成のアドバイスや運動などの指導をしていただいています。可能であれば、その回数を増やしてもらえませんか。

病 院) 回数を増やすのは難しいのが現状です。作業療法士の確保が難しく、作業療法士が関連する業務は難しい。

4. その他

特になし。